

学校だより

## 東雲

(しのめ)



八戸市立東中学校

Tel 31-3170 31-3180

※ 東中学校の教育情報は、ホームページやブログでも  
公開しておりますので、是非ご覧ください。

Fax 32-1130

http://hachinohe.ed.jp/higasi\_j/

◇◇ 共育95 ◇◇

(「共育」:皆さんと「共に育む」の意味です。)

## 進化し続ける立志式 「感動をありがとう！」

2月14日、1年生はもちろん、来年度入学予定の155名の小学校6年生と110名の保護者の方の見守るなか、2年生の立志式が行われました。

吉田周平君と藤森友理乃さんの作文(裏に掲載しています)の朗読から始まり、個人の立志宣言(2月16日の「Blog東雲」をご覧ください)、学年立志宣言、学年合唱とすべてが素晴らしい内容でした。学年合唱は、「大切なもの」を歌ったのですが、1コーラスを終えた段階で、何人もの保護者の方が感動して、ハンカチで目頭を押さえる場面が見られました。すべてが最高の中で、特に印象的だったのが、式の中の姿勢・態度です。身じろぎもせずどっしりと座っている時の「静」と、宣言や合唱に夢中になって取り組んでいる「動」のそのメリハリが本当に見事でした。さらに、立志式の終了後は、恒例の男塾に加え、東中史上初めて結成された女塾のパフォーマンスもありました。こちらも、凛とした気迫に満ちあふれ、背筋がゾクッとするような圧倒的迫力でした。

素晴らしい立志式でしたが、その礎を築いてくれたのは、何といたっても3年生の力です。昨年度、小野寺實前校長先生に「史上最高級の立志式」と言わしめた現3年生の立志式を見ているからこそ、それが土台となり、目標となって今年度の立志式につながったのです。そして、今回の立志式を見た1年生の希望式や来年度の立志式へとつながっていくのではないのでしょうか。伝統として、これからも脈々と続いていくのだと思います。2月29日の1年生による希望式や3月8日の卒業式も、感動を期待しています。(教頭:工藤聡)

### 保護者代表 山下千里さん「激励のことば」

今、みなさんの力強く・頼もしい立志の決意を聞き、今日までの14年間を思い出していました。月日のたつのは早いなあと思うとともに、大きくなったなあと改めて感じました。

さて、立志式を迎え、今みなさんは何を思い、何を感じているのでしょうか。ここから一人一人を見ると、式が始まる前と今とでは違った顔に見えます。緊張からとけたせいもあると思いますが、一つの事をやり遂げたという自信が心なしか見えるように思います。

人は人生の節目を迎えると、一回りも二回りも大きく成長します。なぜなら、今の自分としっかり向き合うからだと思います。今までの自分を振り返り、これからの自分はどうすればいいのかを一生懸命考えるからです。みなさんにとって、これから1年は、自分との勝負の年になります。最後の市中体・体育祭・文化祭そして受験。今まで経験したことのない緊張や不安に立ち向かわなければなりません。そんな時、必ずいったん立ち止まり、自分と向き合うことです。どうすればいいのかを、よく考えることです。考えても考えてもそれでもだめな時は、ひとりで悩んでないで、少し顔を上げて周りをよく見てください。たくさん仲間・先生そして家族があなたをいつも応援しています。あせて大人になる必要はありません。人を頼るのもたまにはいいと思います。ゆっくり、一步一步自分のペースで自分の人生を歩んで行ってください。

最後に、約束してほしいことがあります。みなさんが生まれた時、無事に生まれてきてくれたことに感謝しました。そして、この小さな命を大切に育てていかなければと強く思いました。この14年間、みなさんは両親・先生そして地域に守られ育ってきたということを忘れないでください。そして、自分の命を大切にすると約束してください。それが、さらにみなさんを成長させると思います。



## 立志式 個人作文

吉田 周平

中学校に入学して2年が経ち、ぼくは今日こうして、立志式を2年生の仲間と共に迎えることができました。ぼくも2年前は、今見に来てくれている6年生のみなさんのように、先輩方の立志式を見ていました。その時の先輩方は本当にかっこよくて、自分も中学生になったら、先輩方のようにになりたい、と強く思っていました。

しかし、中学校に入学してからの2年間を振り返ってみると、先輩方には程遠く、勉強においても部活においても、本気になりきれず、自分の中で「これくらいでいいか」と勝手に限界を決めてしまい、中途半端な状態で終わってしまうことが多かったです。「これではだめだ」と思っている、中学校に入学してから2年間、同じことをくり返してきてしまいました。

そのうえ、楽しいことがあるとつい流されてしまい、自分の幼さが原因で、学校生活でも所属している陸上部でも、先生方に指導されてしまうことが度々ありました。特に陸上部では、その幼さが走りにも出てしまい、ゴール直前で力を出し切れずに悔しい思いをしていました。

しかし、昨年秋の新人駅伝大会。新人戦で悔しい思いをしていたぼくは、この大会だけは絶対に後悔しないように走ろうと決めていました。しかも、駅伝はチームで走ります。今までのように「これくらいでいいか」ではチームにも迷惑をかけてしまいます。これまでにないくらい、練習には気合いが入りました。

駅伝当日。ぼくは一区でした。東中の勢いを作る大切な役目です。二区の田中甲君にたすきをつなぐため、必死で走りました。そのときのぼくは「これでいいか」ということすら頭に浮かばないほど必死でした。アンカーの須藤諒君が一位でゴールしたときには、今までに味わったことのない達成感と喜びを感じることができました。

仲間の支えがあって、ようやく本気になれたぼくは、今度は一人でも本気になれるよという決意を込め、立志宣言を「何事もあきらめず、本気でやる人になる」に決めました。

ぼくは今、少しずつではありますが、普段の生活から変わろうと努力しています。あと2か月したらいよいよ3年生。ぼくだけでなく、ここにいる2年生全員がそれぞれの決意を胸にここにいます。今日の立志式を「心の誕生日」とし、大人になって中学校時代を思い出したときに、この立志式を一番最初に思い出せるような立志式にします。

## 立志式 個人作文

藤森友理乃

私には尊敬する人がいます。シドニーオリンピック、女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんです。高橋尚子さんの言葉の中に「人以上やって人並み、人の倍以上やってようやく…」という言葉があります。その言葉を聞いたとき、自分はどうかだろうか、「人以上」やれているかどうかと考えました。しかし、私はある程度やると満足してしまい、それ以上やろうという気持ちはありませんでした。そのため、陸上の大会やテストが終わる度に「もっと練習しておけばよかった」「もっと勉強すればよかった」と後悔ばかりしてしまいます。

昨年の市中体夏季大会。1年生では県大会に出場できた私の目標は、もちろん2年連続での「県大会出場」。昨年のもあり、「いけるだろう」と思っていた私は、特に緊張もすることなく800メートルの決勝レースに臨みました。しかし、結果は4位。県大会出場は3位までです。3位との差は、わずか0.02秒。悔しかったです。それまでに経験したどんなことよりも悔しくて、後悔しました。たった0.02秒の差。練習でもっと走っていれば埋められたかもしれない差。そのとき、ようやく、高橋尚子さんの言っていた言葉の、本当の意味が分かりました。私は決勝のレース、他の選手よりもまず、ある程度やって満足していた自分に負けていたのだと思います。他人に勝つためではなく、自分の甘えに打ち勝つために「人以上、人の倍以上」やらなければならない。そう、高橋尚子さんは言いたかったのだと思います。市中体夏季大会での悔しい経験を、二度とくり返さないために、「県大会出場」という目標を絶対に叶えるためにも、私は「夢に向かって努力する人になる」という立志宣言にしました。

これからは、常に向上心を持ち、ある程度で満足してしまう稚心を捨て、少しずつでも成長できるよう、頑張り続けたいです。また、自分に満足し、努力を怠らないよう、何事にも挑戦し、失敗をおそれない人になります。

3年生の市中体夏季大会では、必ず県大会に出場します。そして、中学校生活最後の一年、自分自身を高め、最高の一年にします。